

各関係機関・団体長 殿

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察特殊報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

-----  
令和 5 年度 病害虫発生予察特殊報（第 3 号）令和 6 年 3 月 15 日  
愛 媛 県

病害虫名 トマト黄化病

病原名 トマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus*, ToCV)

作物 ミニトマト

特殊報の内容 愛媛県のミニトマト栽培圃場における発生の初確認

- 1 発生地域 今治市
- 2 発生経過

令和 5 年 11 月に今治市のタバココナジラミの発生が多い施設ミニトマト栽培圃場において、中位葉に黄化症状を示す株が多数確認された（写真 1）。このため、黄化症状の見られる株の生長点や葉を採取し、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では初確認となるトマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus*, ToCV) が検出され、「トマト黄化病」であることが判明した。

- 3 他県での発生状況等

本病は、平成 20 年に栃木県で国内初の発生が報告されて以来、全国各地で発生が確認され、現在では 24 都府県で発生が確認されている。

- 4 病徴

本ウイルスに感染した葉は、葉脈間が退緑し黄斑を示す。その後症状が進展すると葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる（写真 2）。病徴は下位～中位葉に現れやすく、生理障害である苦土（マグネシウム）欠乏症と類似しており、判別は極めて難しい。果実等への被害は見られないものの、生育が抑制され収量が減少することがある。

- 5 感染植物

トマト以外にアカザ科、キク科、ゴマノハグサ科、シソ科、ナス科、ナデシコ科、フウロソウ科、リンドウ科で感染が確認されている。

- 6 伝染方法

本ウイルスは、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介される。伝搬様式は半永続伝搬（ウイルスを獲得したコナジラミ類は、数時間から数日間媒介能を有する）で、経卵伝染はしない。また、栽培環境下では、汁液伝染、土壌伝染、種子伝染はしないとされている。

- 7 防除対策

本病はトマト黄化葉巻病と同様にコナジラミ類（トマト黄化葉巻病はタバココナジラミのみ）によって媒介されるため、トマト黄化葉巻病と同様の対策を行う。

- 1) 施設栽培では、開口部をできる限り細かい網目の防虫ネット（1mm 以下、0.4mm 以下が望ましい）で覆い、侵入を防ぐ。また、UV カットフィルム、光反射フィルム、黄色粘着板等の物理的防除法を利用する。
- 2) 圃場内外の雑草は発生源となるので、除草に努める。
- 3) 薬剤散布に当たっては、同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。なお、タバ

コナジラミでは、一部地域や施設で感受性が低下している事例があるため、薬剤選択に留意する(表)。

4) 施設栽培では栽培終了後、株を抜き取り枯死させた後、蒸し込みを行い、コナジラミ類を死滅させる。



写真1 黄化症状がみられたハウスの状況



写真2 葉の黄化症状

表. タバココナジラミ幼虫に対する薬剤の効果

薬剤名	IRAC コード	供試希 釈倍数	備考
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2,000	※
スタークル/アルハリン顆粒水溶剤	4A	2,000	※
ダントツ水溶剤	4A	2,000	※
トランスフォームフロアブル	4C	2,000	※
ディアナSC	5	2,500	
アファーム乳剤	6	2,000	
コロマイト乳剤	6	1,500	
アネキ乳剤	6	1,000	
カスケード乳剤	15	4,000	※
マッチ乳剤	15	2,000	※
ノーマルト乳剤	15	2,000	※
ベネビアOD	28	2,000	
ウララDF	29	2,000	※
グレーシア乳剤	30	2,000	
ファインセーフフロアブル	34	1,000	

注) ※のついた薬剤については、農林水産研究所で、タバココナジラミの2~3令幼虫を用いて検定を実施した結果、効果が大きく低下した事例が認められた薬剤